ザーラ・イマーエワ

（チェチェン共和国・元外務省報道官、元文化省映画担当次官／戦争難民／

ジャーナリスト／映像作家／アートセラピーセンターＤｉＤｉインターナショナル主宰）

Speaking Tour in Japan

2013 年 2 月 23 日～4月 23 日

［企画趣旨］

3・11 以降、
日本を襲った根本的な価値観の揺れは、
いまだ収まることなく、私たちを揺さぶりつづけています。
震災があらわにした東北地方の日本における地政学的位置づけ。
原発事故によって無数の人々が失郷するという「ディアスポラ」的状況。
地震、津波といった凄まじい災厄による生々しい死の風景、
肉親との別離、故郷の喪失が引き起こすトラウマの問題。
深刻な問題と反対の声に直面しながらも「やめることのできない原発」に
内在する構造的問題と「戦争の経済」の問題の見えないリンク。

現在の日本にとって極めて具体的であり、かつ普遍的な問題である
「ディアスポラ（離散）」「トラウマ」「再生のための癒し」「非戦の思考」。

これらの諸問題をめぐって、
「ディアスポラ＝民族離散」と「戦争の災厄」という悲惨な現実を闘い、
生き抜いてきた当事者であり、卓越した表現者であり、アートセラピー実践者であり、
その活動を通して広く世にメッセージを送り続けてきた
ザーラ・イマーエワを迎えて、
いま、あらためて、この日本で、多くの方々と語り結ぶ場を設けたいと考えています。

まずは 2013 年 2 月 23 日。
この日から２か月にわたって行われる
ザーラ・イマーエワの Speaking Tour in Japan の出発点と我らの課題、旅の展望を
広く、深く、共に語り合い確かめあう場を設けたいと思います。

（※2・23 とは、1944 年に、ソ連によってチェチェン人 25 万人の強制移住が行われた日）

『ディアスポラ（離散）／トラウマ／アート』

～2・23 から３・11 へ　災厄から再生へ　語り結ぶ旅～

ザーラ・イマーエワ　Speaking Tour in Japan　　Vol.1

日時：2013 年 2 月 23 日（土）　14 時開始　（～17 時終了予定）
場所：大妻女子大学千代田校舎　Ａ棟３６６号教室
（ＪＲ・地下鉄市ヶ谷駅から徒歩 10 分、地下鉄半蔵門駅から徒歩５分・九段下駅から徒歩 12 分）

主催：大妻女子大学／チェチェン連絡会議
＜大妻女子大学　人間生活文化研究所　共同研究プロジェクト（054）
「子どもと女性の暴力被害者を支援する〝専門職〟育成のための e-ラーニング開発研究」＞
入場無料　ただし、カンパ大歓迎　配布資料は、500 円　２次会予定あり

●はじめに　「2・23 から３・11 へ」　姜信子（作家・全体進行担当）（14：00～14：10）

●講演：「ディアスポラ／トラウマ／アート ～災厄から再生へ～」　(14：15～15：00)
講師：米田綱路（よねだ・こうじ）氏　　ジャーナリスト

１９６９年奈良県生まれ。新聞社、出版社をへて週刊書評紙図書新聞に入社。編集長をへて、現在は同紙スタッフライターを務める。
『モスクワの孤独――「雪どけ」からプーチン時代のインテリゲンツィア』でサントリー学芸賞受賞。そのほか著書に『脱ニッポン記――反照する精神のトポス』（上・下）、『ジャーナリズム考』、
編著に『はじまりはいつも本――書評的対話』、『抵抗者たち――証言・戦後史の現場から』など。

●映画上映：『いって・らっしゃい』（2012 年　ザーラ・イマーエワ/　岡田一男）

在日韓国人作家　姜信子と、亡命チェチェン人女性ジャーナリスト　ザーラ・イマーエワは、カザフスタンへの対話の旅に出る。そこはかつて二つの民族が出会った追放の荒野。1937 年、ロシア極東のコリアン＝高麗人 19 万人が日本への加担を疑われ、また 1944 年には、北カフカスのチェチェン人がドイツ への加担という濡れ衣で、カザフスタンに追放されたのだ。　いま、記憶の中に希望を探る旅が始まる

（15：10～16：05）

●ザーラ・イマーエワに聞く　「戦争／子ども／セラピー」　（16：15～16：50）
聞き手：鄭暎恵（チョン・ヨンヘ）

1960 年三河島（東京都）生まれ。1952 年サンフランシスコ講和条約発効時に、日本政府が旧植民地出身者から日本国籍をはく奪したが、1965 年日韓条約以前の生まれであるため、出生時の「正式な」国籍は不明。現在、大妻女子大学人間関係学部社会学専攻教員。担当科目は「アイデンティティ論」「ジェンダー論」「エスニシティ論」。

最新情報は チェチェン連絡会議公式ホームページ　http:// http://chechen.jpn.org/を参照ください。